（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を柱として、グループホーム内でも目標を設けている。申し送りや部会の場で実践につなげている。	複合施設「あい愛塩尻」としての理念である私達の願い「5つの柱」にある自立支援、地域交流などに沿ったホーム独自の目標を年度毎に立てている。今年度の目標は「おいしい旬の物を入居者と作り食べる」で、理念や目標を目指し全職員でケアに取り組み、また、ホームの部会で振り返り、実践状況を確認している。理念は食堂の壁に掲示されており、入居時、本人や家族に話をしている。理念にそぐわない言動が職員に見られた時には職員間で声がけをし、リーダーや管理者から助言をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校、保育園で来訪してくれたり、地域のお祭りでは施設前まで舞台が曳航しお囃子を演奏し入居者や職員と交流している。 新型コロナウイルス感染対策の関係で、なかなか交流が難しかったが、規制も緩和されてきたので、これからもっと交流を深めたい。	複合施設として地元自治会に加入し区費を納め、地域との関係を深めている。新型コロナの5類移行後の今年度の地元のお祭りでは複合施設玄関前に山車や獅子舞、馬の行列などが入り利用者もその賑やかな雰囲気を楽しんだという。施設のケアガーデンは近くの保育園児の散歩コースになっており手をふる利用者にも笑顔が見られるという。この数年の新型コロナ禍で小学校との交流は自粛ぎみとなっているが、児童の育てたレタスが施設にプレゼントされている。新型コロナ禍前は図書館分館職員、ボランティア等との交流も盛んに行われており、新型コロナ5類移行後の再開が待たれるところとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くに住む方認知症の方が生活相談に来所したため、民生委員、地域包括支援センターと連携をはかり支援したことがある。 コロナ禍において積極的な地域貢献や、交流の機会を持つことは困難となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染対策の関係で、書面開催となっている。 開催時には入居者、ご家族の方々も委員となり参加していた。日々の様子の報告や、行事やイベントの写真等を活用して報告する。意見交換の場となる。	例年であれば年6回奇数月の日曜日に開催しており、利用者、家族、区長、民生委員、市職員、ホーム職員が参加し、サービス向上に活かしていたが、新型コロナ禍で同時に行われていた会食会もできず書面開催となっている。また、開催時には利用者と家族全員に声がけした結果家族の参加も多く、運営状況の報告やスライドショーを使って利用者の様子を見ていただいていた。新型コロナの5類移行後、推進委員会のメンバーが参集しての対面での報告や話し合いの機会が待たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が3か月毎に来訪して、入居者・職員との交流を行っている。コロナ禍において中止されていたが、6月に介護相談員の来訪を再開し、施設内見学、入居者と歓談、スタッフとも交流の場があった。	市担当者とは随時情報交換を行い、助言、指導を受けている。市からメールが送られ情報提供もある。更新時の介護認定調査は市の調査員がホームに来訪し、家族が同席し行われることもある。市の介護保険事業所連絡会がオンラインや参集して行われ、情報交換しながら連携をとっている。介護相談員2名による3ヶ月に1回の来訪も6月から再開されており、利用者との対話の中から何か気になることがあればホームに報告があり、ホームとしてもケアに活かすようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・介護技術委員会を設置。毎月1回開催し、良質なケアの提供に取り組んでいる。職員の要望を参考に委員会主催で、研修会を実施している。グループホーム出入口扉を開放しており、自由に出入りできる。館内職員全員での見守り体制の強化に努めている。	グループホーム出入口は開放されており自由に出入りできる。身体拘束廃止・介護技術委員会が複合施設内に設置されており、職員間で話し合いを重ね拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の様子を見ながら職員が声がけを行い、ホームの中を歩いたり、ホーム出入口前のベンチに腰掛け気分転換を図っている。複合施設の敷地は広く、1日に1回は外に出て外気にふれるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	あってはならない事なので、注意を十分払い、言葉の虐待等見逃さないように努めている。 これからも防止により一層努めていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から相談があった際、制度についての説明を行い、関係機関の紹介を行った。 また、金融機関や生命保険会社からの意思決定についての照会があり、職員間で判断の能力についての検討を行った。 ケアマネ勉強会で学習の機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書類（利用料、重要事項）の説明を行い同意、理解を頂いている。 相談窓口も明確化している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見、要望は、職員間で共有し、施設長を含め運営に反映させている。 ご家族等の意見、要望は、面会時や電話時等に伺い、部署内や主任会議等で検討し、適切な手段で周知している。	三分の一ほどの利用者が意見や要望を伝えることができ、自分の要望を上手に表すことができない利用者については職員が話をしながら表情や動作から読み取るようにしている。新型コロナの5類移行後の家族の面会については予約を頂き、15分間、相談室や外のベンチで行えるようになった。それに伴い、家族の来訪は月1回ほどあり、ホームからもその都度利用者の様子を知らせ意見・要望をいただくようにしている。新型コロナ禍の中で、利用者とのオンライン面会を行った県外在住の家族もいる。例年であれば隔月に開催される運営推進会議に出席する家族も多く意見を伺う場ともなり、会議終了後には利用者と共に食事を作り会食し家族同士の交流も図っていたが、新型コロナ禍で自粛せざるを得なくなっていた。再開が待たれるところとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議、グループホーム部会を実施している。グループホーム部会では、職員の意見や、改善事項など検討し実践している。 管理者とリーダーは主任会議に出席し、現場職員の意見や提案を報告。検討し、運営に反映できる機会を設けている。	毎月1回複合施設の全体会議やグループホーム部会があり、管理者とリーダーは主任会議に出席し、会議で取り上げる議題を検討する中で相談し意見を出している。部会では個別ケアを行うに当り、一人ひとりの利用者についてのケアカンファレンス行い方針を決め、毎月ホームの目標を立てステーションに掲示し評価している。職員は利用者の支援に当たり不安に思うことはリーダー、管理者に相談している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る事、出来ない要望はあるとは思いますが、条件の整備は努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、認知症ケア、身体拘束廃止、感染対策等の研修会を実施し勉強している 介護学生の実習受け入れを通して、共に学び合う機会となった。認知症介護基礎研修の受講や、介護職員初任者研修受講中の職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員が同業者と交流する機会がない。 介護支援専門員は、市で実施しているケアマネジャー勉強会や主任介護支援専門員事例検討会に参加し、実践力の向上と連携を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望など耳を傾けながら、本人の安心へと繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前相談や入居前訪問を実施し、家族からの思いや要望等のほか、今日までの生活歴、関係等を伺い、信頼関係の構築に努めている。また関係機関との連携をはかり、家族の意向や不安に寄り添えるよう理解を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に得た情報を元に、希望の支援、必要なサービスを入居時から提供できるように努めている。本人・家族の思いや要望等を職員間で情報共有し支援体制作りに努めている。入居後は、細目に情報交換を行い、チームで支援体制を構築できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者であることを念頭に、与える事もあれば与えられる事も多々あるので、一方の立場にならぬ様、努めている。 暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、職員が近況報告をお伝えし、時にはご家族からのご意見、要望を聞くように努めている。本人とご家族の写真撮影をすることもある。利用者の気持ちに耳を傾けて、心を穏やかにもっていく・築いていくよう努力している。が十分ではない部分があると思う時がある。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた事に関しては、耳を傾けるようにはしているが、支援が出来ているかというと不十分な面がある。	新型コロナ感染の影響を受け自粛せざるを得なくなっていたが、新型コロナの5類移行後、家族の面会と同様、近所の方や友達などとの面会が、予約を頂き、15分間、相談室や外のベンチで可能となっている。グループホームから複合施設上階の有料老人ホームに移られた利用者もおり、交流スペースで馴染みの方と会うことがあり、声をかけ合うこともある。ホームに入り同郷であることがわかった利用者同士が懐かしい昔の話をすることもある。同じく、新型コロナの5類移行後、お盆には家族の送迎で久々に帰省をした利用者もおり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席の配置に配慮したり、職員が介入し穏やかにすごせるよう努めている。時にトラブルはあるが、スタッフが介入し、他者との交流の場を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に住み替える方は情報を提供を行い、施設内で合った時には声をかけ、これまでの関係性を保ちつつ協働して支援が行えるように努めている。自宅に退去された方は、介護支援専門員・地域包括支援センターと連携を図り情報共有や、家族に近況を伺ったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ごとに担当職員を決め、個々の思いや希望の把握に努め、できるだけ本人の意に添うよう努めている。本人・ご家族からの情報収集や、カンファレンスや部会の場を利用して、適宜検討するよう努めている。	三分の一ほどの利用者が意思疎通ができる。入居時、「介護が必要になった時に見るノート よろしく!」の記入を家族にお願いし、本人が望む生活ができるよう多面的な視点から職員が検討し、寄り添うケアに努めている。また、利用者の昔の写真を家族から借り、その写真について回想する中で利用者の思い出話を聞き、その人の人となりを更に把握しより良い支援に繋げている。ホームでは外部の教師による書道教室への参加、カラオケ、体操、ゲーム、ビデオ鑑賞など、利用者自らが選択できるように働きかけをしている。入浴時は個別に関わる良い機会でもあり職員は利用者の思いを聴きとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ごとに担当スタッ職員を決め、担当者が中心となり暮らしの把握を行い、部会等で情報共有し、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を日々記して、職員間で情報の共有を行い、変化する状態に合わせた対応が出来るように努めている。その日の体調を見ながら、現状に合った支援を微力ながら進めている。把握に努める努力はしているが、まだまだ十分ではないと感じている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者を各スタッフが担当している。 設定期間に合わせて支援内容の見直し、変更を行うようにしている グループホーム部会や適宜カンファレンスの機会を設け、検討している。	職員一名が一名の利用者を担当している。グループホーム部会の中で月1回モニタリングを行い、「入居者生活目標一覧」を確認しながら職員で話し合いを進め、カンファレンスも開き家族の意向も踏まえ介護計画を作成している。6ヶ月ごとに見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員,看護師,ケアマネ,主治医が同じ書面に記録し情報共有している。身体状態変化時等、すみやかな対応が可能となっている。 その方の変化にも気付きやすいので、記入に関してはスタッフ全員で実践していかなければと感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ支援の仕方を変えていくようにしている。 利用者の状態に合わせて、食事形態の変更、食事時間をずらすなどして、ひとり一人に合わせた対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活を楽しめるよう支援している。馴染みの場所にお花見に出かけたり、ドライブに出かけることもある。日々の活動は、今は施設のまわりを散歩したり、外気浴が多いが、頻回のドライブやスーパーなどへの買い物も出来るといい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医は、ご本人ご家族の希望に添っている。地域の医療機関への受診支援も行っている。嘱託医が週1回の訪問診療に来所しており、適宜、適切な医療を受けられる体制ができている。また、緊急時にも医療連携が図れるよう体制を整えている。	利用前のかかりつけ医を継続することができるが、嘱託医が地区内にあることから、内科については全利用者が嘱託医による週1回・水曜日の訪問診療を受けている。その他の診療科、歯科医については家族がお連れし職員による受診支援も行っている。併設の特定施設の看護師が朝・夕の申し送り時に参加し利用者の様子を把握しており、夜間オンコールで24時間の連携体制も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と医療連携体制を整えている。朝・夕の申し送りに参加し情報の共有をはかる対応を整え、日中も必要時医療支援が受けられている。夜間はオンコール対応による支援体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に同行し書面と口頭で情報提供を行っている。入院中および退院時には、病院関係者より利用者の情報を把握し家族を含め今後の生活、支援について相談を行うよに、相互の連携を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向確認を行い、主治医を交えて方針を共有をする。 必要時にはグループホームから特定移設への住み替えや転居も視野に検討する。今は看取りの方はいらっしゃらないが、主治医,職員で、本人・家族のお思いに添える支援が出来るよう心がけている。	ホームとして「健康管理体制及び重度化対応についての指針」があり、利用開始時に利用者や家族に説明しており看取りの経験もある。状態に合わせてその都度説明し、また、同意の確認もし、病状については医師・看護師・職員が連携を取りながら家族への連絡や対応をしている。看取りについての勉強会は看護師を講師に実施し、回数を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、急変、事故発生時、オンコールにて指示をもらい、速やかに対応に当たっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に備え非常用食品、ヘルメット等準備をしている。避難時マニュアルの作成と確認を繰り返し行っている。	年2回、利用者・職員全員参加の避難訓練とホーム独自の防災訓練を実施している。新型コロナ禍で消防署員の立会いがない時があったが、今年度は立会いの下、実施する予定となっいる。利用者もヘルメットを被り、タオルを口にあてて玄関から外に出る訓練を行っている。訓練時には消火器の場所の確認やホースを使い水を出し水圧の確認もしている。建物は堅固な造りで、スプリンクラー、緊急通報装置も設置されているが、大雨の時には事務所のメンバーが泊まる準備をし、市への連絡体制も整備している。民生委員の配慮を受け地域との協力体制作りも行われている。水や食料品の備蓄は3日分準備されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた会話を心がけて、言葉がけに気をつけながら、対応している。 人格の尊重が言葉がけの中で損なわれていないか確認する事を心掛けている。	ホームの部会で人権や接遇に関し学習し、意識を高め実践している。家族にお願いしまとめていただいた「介護が必要になった時に見るノート よろしく!」の内容を理解し、利用者一人ひとりのの自主性を重んじている。利用者への声がけについてはトーンを下げ、ゆっくりした言葉を遣うように努め、また、目線を同じくし、苗字に「さん」付けでお呼びし、尊敬の念を込め支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、思い、どうしたいのかを傾聴し、入居者の表情・反応を読み取り、今何を求めているかを把握するように努めている。 本人の希望を導き出すことが難しい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの動きに合わせ、柔軟に変えていく努力をし支援している。入居者一人ひとりの動きに合わせ、柔軟に変えていく努力をし支援している。職員の都合を優先してしまうことがあり、利用者様優先で支援が必要だと感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、理美容の利用、個別希望に添った支援を行っている。自分で出来る方には、本人に選んで頂いたりしている。 日々、爪切り、爪磨き、整容など行い、身だしなみ支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに参加してもらったり、一緒に盛り付け、配膳などしている。食器洗いも可能な時は一緒に行っている。食べたい物を伺ったり、食材に合わせて調理方法を教えてもらったりして、献立を一緒に考えたりしている。	三分の二の利用者が自力で食事を摂ることができ、一部介助と全介助の方がそれぞれ若干名ずつとなっている。食事の形態についてはトロミをつけたり、細かく刻んだりする方が若干名ずついるが大半の方は常食となっている。献立は職員が冷蔵庫を見ながら利用者の希望も聞き立てている。利用者のお手伝いは無理強いはせず、下ごしらえから盛り付け、配膳、下膳、食器洗いまで行っていただき、テーブルはリレー方式で皆さんが拭いている。誕生日には本人の希望に沿い、寿司、海鮮丼などを提供している。焼きそば、饅頭、おはぎ、御幣餅などを作ったりもしている。また、干し柿、ふきみそ、朴葉巻、梅漬け、かんぴょう作りにも取り組み、伝統の味を楽しんでいる。施設の畑で採れる野菜は豊富で、新鮮な野菜が食卓を彩り、家族からもブドウ、夏野菜などか届いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ好きなものを摂取して頂けるように、お茶時には、コーヒー、ココア、ジュースなど、希望を聞いて提供している。水分量、食事量、体重測定を記録に残し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。また、特変の早期発見に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うように声掛実施。残渣物がある場合は仕上げ介助をし、口腔状態を見ながら清潔保持に努めている。入れ歯の方には、夕食後はポリデントの使用を促し、清潔を保持できるよう支援を行っている。歯科医師・歯科衛生士による居宅管理指導導入準備中である。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンや排泄状態を把握。排泄の失敗やパットの使用を減らせるよう、適宜声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄や身体機能の維持を支援している。排泄用品や支援方法については、随時、情報の共有、評価・検討を行っている。	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握し、定時の誘導とともに、利用者一人ひとりの仕草・様子などを見て、随時声がけし支援している。布パンツの方は若干名で、布パンツにパットとリハビリパンツにパットの方が三分の一ずつとなっている。現在、一時的にポータブルトイレを使用している方が若干名いるが、他の利用者についてはトイレで排泄ができるように誘導している。トイレの場所には提灯が吊るされわかり易くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、適量飲水の促進、便秘の原因を探り、食事面からのアプローチも心掛けている。体操や散歩等体を動かす働きかけ等で個別にあった支援を続けている。排便コントロールのため、緩下剤を内服されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日、時間帯は限られてしまうが、入浴中の声掛け、時には歌を歌ったりして楽しく入れるようにはしている。入浴の準備は一緒に行っている。希望する時間帯に入るのは難しいが、個々のタイミングで対応するよう努めている。	入浴時、自立の方と全介助の方がそれぞれ若干名ずつで、その他の方は一部介助となっており、週2回入浴している。同性介助希望の方には希望に沿えるよう支援している。入浴を拒む方には時間を変え、言葉かけの工夫をし入浴に繋げている。ホームのある複合施設の上階には大きなお風呂があり利用者も温泉気分で楽しむことができる。利用者の希望を聞き、りんご湯、ゆず湯、菖蒲湯などを行い、入浴剤も使用し、気持ちよく入浴ができるよう支援し足が冷える方には足湯を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は本人のペースに合わせて対応し、安心して眠れるよう支援している。日中、ホールやソファーで傾眠されている方や、居室で休息する方も居るが安心し気持ち良く眠れているかというと不安がある。眠剤を服用されている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時の情報提供書や診断書等で疾病把握し、薬情報は、薬局からの処方薬情報や薬献を調べて、薬効と副作用と併せて確認している。薬の使用目的、用法を理解し、飲み忘れ、誤薬を防ぐ様に取り組んでいる。薬の変更については、主治医や看護師と連携し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に興味のあることが異なり、状態も異なるため、個別支援で役割や気分転換できるように日々支援に努めている 併設施設と合同で、:カラオケや外気浴・体操、ゲーム、ビデオ鑑賞等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時期は屋外に出て外気浴、散歩をしている。施設内の畑で野菜作り、庭で花を育てている。新型コロナウイルス感染対策が緩和され、今年は氏神様のお祭りの儀式を、近くの小学校に見学に行くことができた。また、お盆に帰省した方もいた。ご家族と相談しながら、できるだけ本人の希望に添っていきたい。	複合施設の敷地は広大で、前庭、ケアガーデン、ゲートボール場などもあり、所々にベンチも置かれ利用者も散歩や外気浴を楽しんでいる。職員が援助し野菜や花を育て収穫も楽しんでいる。年間行事計画書があり、有料老人ホームと一緒に行事を行い、花見、ぶどう狩りにも出かけている。また、新型コロナ禍で外出が難しかった時には、複合施設1階の地域交流スペーやホーム内に模擬的なブドウ棚やイチゴ畑を作り、本番さながらに楽しんだという。一日一回、敷地内の屋外散歩などで外に出れるよう支援している。利用者はホーム出入口前のベンチに腰掛け外気浴をし、季節を感じつつ景色を眺めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解の下、現金を所持している事により安心して生活されている方がいた。 買い物時、入居者に現金の支払いをして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時は、ご家族に電話をして取り次いでいる。 ご家族や旧知の友人から手紙が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室と共有スペースが隣接している。共用スペースに季節の生花を飾っている。フロアーの壁面には日常の写真を掲示したり、季節の作品を掲示してくつろげる空間作りに努めている。 食堂とホールは離れているが、食事作りの様子（音やにおい）が感じることができる。	共有スペースは食堂とホールが別々で広々としており、全体を見渡すことができる。ホールには全利用者が座れる大きなソファーが置かれ大画面のテレビもありゆったりと寛ぐことができる。複合施設1階の玄関ホールからホームへの入口には年間を通しての行事や日常場面の写真がコメントと共に壁に飾られている。飾り付けや掲示も工夫されており季節が感じられる心地良い空間となっている。ホームは1階にある地域交流スペースにも繋がっており、そこでのイベントにも毎回参加している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には机・椅子の他に、いくつかのソファーを配置してあり、自由に過ごして頂けるようにしている。 自分の好きな所でお話したり、独りで過ごしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は畳部屋であり押入れがある。自宅で慣れ親しんだ家具等を置いたりして、本人の好みに合わせた安心して過ごせる環境になっている。本人が好きなポスターや塗り絵、書道の作品を壁に飾っている。居室内の事故に配慮し、時々は本人と共に居場所を整えている。	居室は畳部屋で、エアコン、ベッド、押入れ、洗面台が備え付けられている。自宅から使い慣れた家具等が持ち込まれており、整理整頓された居室には今は亡き連れ合いの方の位牌・遺影を置き、家族写真、家族の切り絵、自らの作品などを壁に飾る方など、利用者が思い思いに心地良い生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには手作りの表札を付け、写真や紙工作品を飾り自室がわかるように工夫している。居室内は照明スイッチ場所を明示。トイレは張り紙や提灯をぶら下げた、トイレ内は使用方法をわかりやすく書いた張り紙を貼って、安全かつ自立を支援できるように取り組んでいる。		